

「クリシュナ・ガウディの部屋 紹介文」

岡和田晃

まもなく日本語版の発売が予定されている『エクリプス・フェイズ』基本ルールブック。その監修者の朱鷺田祐介が新作小説「クリシュナ・ガウディの部屋」を書き下ろした。

“死は病にすぎない、治療せよ……。”『エクリプス・フェイズ』基本ルールブックの裏表紙に記された著名な惹句だが、とすると、そのようなポストヒューマン社会で、自殺することとは、いったいどのような行いなのだろうか？

自殺から蘇生した火星の医師の独白で綴られるこの物語は、期せずして宮内悠介『エクソダス症候群』にも通じる主題を扱っている。『エクソダス症候群』で描かれた地球への帰還願望や突発性希死念慮といったモチーフは、ちょうど本作の関心を裏側から掘り下げているようである。読み比べてみるのも一興だろう。

なお、語り手のイメージ・イラストはサプリメント『モーフ・レコグニション・ガイ

ド』から、ファウスト義体のものを用いてみた。メントン義体をベースにしているのと、外見のイメージが小説の設定に見合うように思われたからだ。

朱鷺田祐介は、2015年にはPS VITA用デジタルゲームのノベライズ『魔都紅色幽撃隊』（西上柁との共著、ベストセラーズ）、トールキンの世界を解説した『中つ国サーガ読本』（洋泉社）、『深淵』の第二版テンプレート集『辺境騎士団領』（新紀元社）といった著作を刊行してきた。